



定住外国人子ども奨学金 News Letter

※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

夏の奨学生交流会

8月26日(日)、夏休み中の奨学生たちに集ってもらい「奨学生交流会」を実施しました。例年通り、午前中に奨学生があるテーマで話し合う時間を持ち、午後からは奨学生が書いた作文の添削・修正と実行委員による奨学生の面談を同時並行で行いました。

今回は、午前中の交流会について書きたいと思います。午前中の奨学生交流会は毎年さまざまなテーマで奨学生たちが話し合う時間を設けており、今年は事務局ボランティアの私が、「大学はどんなところか」について話をしました。(ちなみに、前年度は「生きづらいこと」についてでした。)

今年のテーマが大学になったのは、事務局内で「大学っていろんな学部があって分かりにくいよね」とか、「どんな学部に行けばどんな就職先があるのかなど、高校生にとってはよく分からないよね」、「在留資格によっては奨学金を借りられないことは知っておくべき」といった話があがったからでした。

こうした背景のもと、交流会では以下の3つを主に話しました。内容はざっくりとですが、奨学生が進路を選択する時の参考になればと思います。

① 私自身の進路選択について

いきなり「大学とは?」と話し始められても退屈だろうと思い、まずは私自身の高校生活と進路選択がどのようなものだったのかを話しました。高校生である奨学生にも、少しは身近な話として感じてくれたのではないかと思います。

② 大学と学生生活について

「そもそも大学と専門学校はどう違うのか?」「大学生はどのように4年間を過ごすのか?」「たくさんある学部はそれぞれどう違うのか?」「学部によって就職先は異なるのか? (経済学部はみんな金融関係の仕事か? など)」など、実際にパソコンでウェブページを見たりしながら奨学生に理解してもらいました。

③ 在留資格と奨学金について

大学生で奨学金を借りようと思えば、まずは日本学生支援機構に申請する場合が一般的です。しかし外国人の子どもで在留資格が「家族滞在」の場合は、この奨学金を借りることができません。そのため自分がどの在留資格で、どういった奨学金を借りられるのかということ、前もって把握しておくことが重要になります。

(事務局ボランティア N.D.)

奨学生からのメッセージ

A さん (11 期生)

「人間関係」

私は小さい頃から人に合わせるのが好きということもありますが、人と違うことで人に嫌われるのが怖くてずっと合わせていました。でも、正直、楽しくなかったし、しんどかったです。

小学生の頃、あまり目立つ方じゃなかったし、自分の思っていることを言わずにずっと賛成していただけでした。ですが、中学生になって人に合わせるだけではなく、しっかり自分の意見を持ち、人を傷つけない言い方で言うというのを学びました。自分では気付かずに、時には周りの人を傷つけてしまっていることもあると思うけどできるだけそうならないように意識します。

私は正直、学校ではうるさいです。中学の時は、周りの気持ちを考えずにはっちゃけて周りのみんなにはノリで「おまえうるさいねん！」としか言われず、周りの気持ちを考えないまま高校に進学しました。ですが、高校生になってからも仲の良い人からは「おまえ一回だまれ」としか言われませんが、きっと、何も言わない人は本気で静かにしてほしいだろうと最近になって思うようになりました。それも成長したのではないかと思い、うれしく感じます。ちょっと静かにするのは自分にとって今は難しいですが自分が変わるように頑張ります。

また、人間関係は人を信じることでそこで成り立っていくものだと思います。中には人を信じたら、いつか裏切られるから信じないと考える人もたくさんいると思いますが、人を信じないといつまでたっても浅い関係になるだけだと思います。なので私は人を信じることはとても大切だと思います。

私の学校では聖書という科目があり、「信じるとは、目で見て信じるのではなく、目で確かめなくても信じるのが、本当にそこで信じたことになる」と言われ、心が動かされました。私は目で確かめなくても信じるというのはとても素敵なことだと思います。

私は 15 年間生きてきて人間関係というのはとても複雑で難しいと感じました。ですが、人に合わせれば相手も合わせてくれる。信じれば信じてくれる。嫌えば相手も自分のことを嫌いになる。優しくすれば優しくしてくれる。人間関係はオウム返しみたいなものだとわかりました。

U さん (11 期生)

「西日本を襲った自然災害」

2018 年 7 月 5 日～6 日にかけて、歴史的な豪雨が西日本を襲った。豪雨災害で計 11 府県に大雨特別警報が出た。死者は全国で 203 人、行方不明者は少なくとも 47 人いる。今もなお、6000 人近くの人が不自由な避難生活を送られている。少しでも、元の暮らしに戻れるよう他県からボランティアの人が広島県や岡山県に行かれた。

私はボランティア活動についてすごく興味を持った。連日、猛暑が続く中、支援活動をしている。さらに仕事をしながらも有給休暇をわざわざとり、ボランティアとして支援しに行く人が何人もいた。

私もこの人たちのように困っている人たちを少しでも助けられることがないか考えた。

まず、ほんの少しのお金があれば募金をしたいと思っている。家をもう一度建てることができれば安心して元の暮らしに戻ることができるからだ。

そして、私は地域の人たちとしっかりコミュニケーションを取ろうと思っている。地域の人とコミュニケーションを取っていると、もし、自然災害があったとき、周りの人と助け合うことができるからだ。私は小学 6 年生の頃、ある方から地震の時の話を聞いた。その方は本棚の下敷きにされていた

が、近所の人が助けてくれ命にかかわることはなかったと言っていた。それを聞いて私は地域の人と一度顔を合わせることや話すことはとても大切なことだと気付かされた。

なので私は普段からあいさつを交わして、コミュニケーションを取ろうと思った。少しでも人と助け合うことができれば生活環境も豊かにできると思った。

私も大人になったら、困っている人たちを助けられるようないいボランティアになりたいと思った。小さな活動でもしっかり参加し、人のことを考えられるような大人になり、周りの人を幸せにできるようにがんばりたいと思った。

T さん (11 期生)

「学校生活について」

私は、H 高校に通っています。私は将来看護師になって人の役に立ちたいと考えているので、家から通える普通科の特色選抜で医療・看護のある高校を選びました。今は、一般的な知識を身につけるために普通科の人たちと同じ内容の授業を受けています。

私は高校に入学して感じたことは、中学生より自由で楽しいということです。でも油断するとイエローカードをきられて生徒指導を受けます。自由の裏には義務を果たさなければならないという厳しさがあります。その中で、何か頑張りたいと思い生徒会の副会計委員長に立候補しました。現在学校のために生徒会役員として活動しています。中学生のときには、生徒会役員になるなんて考えてもいませんでした。そんな私が、生徒会役員に立候補したのは、自分に学力以外の人間力をつけたかったからです。誰かのために働くことや、皆のことを考えて行動することは、私の中にまだなかった部分です。今まで勉強も含めて自分の生活で精一杯でしたが、高校に入ってそれだけでは足りないものがあると思うようになりました。看護師になるためには、人のために即行動できる力が必要です。また、多くの人の気持ちを考えたり察したりしなければなりません。今の私には、まだまだその力は十分備わっているとはいえません。自分のことを冷静に考えて、高校 3 年間生徒会で仲間と共に活動することで助けたり助けられたりしながら自分の内面をみがいていきたいと考えています。

しかし、そんな硬いことばかり考えている訳ではありません。この 3 年間、しっかり勉強し、たっぷり高校生活を楽しまたいと思っています。友達もできたので何か楽しい企画をして学校生活を盛り上げることができたらいいなと密かに思っています。そのためには友達とつながり、同じ考えの仲間を増やしたいと思います。

N さん (10 期生)

「高校生になって成長したこと」

高校生になってもう 1 年と 3 か月が過ぎました。1 年と 3 か月とは言うものの、実際は高校生活を半分過ごし、ほとんど折り返しになるのがこの夏休みです。そんなことないと思う人もいるかもしれませんが、個人的にそう感じたので、この作文を機会に振り返ってみたいと思います。

中学生の時から大きな変化があったな、と感じたのは、自分の言動についてでした。人に見られることが苦手で、同級生と話すのも一苦労だったのですが、高校生になってからは、少し積極的になれたように思います。それでも、初対面の方と話したりするのは慣れませんが。進学してすぐは、同じ中学校の人とばかり話していたのですが、クラスの違いから、会う機会が少なくなり、同じクラスの人と話すようになりました。ここまでは誰もが経験する友達ができるまでの流れですが、自分はこの

ときに、どうしてかはわかりませんが、自分に自信がつきだして、個人的に抵抗のあった女子とも気軽に話せるようになりました。他にも、人の目を気にして行動していたのが、自信がついたからか、恥ずかしいと思うことが少なくなり、自分がやりたいことや、効率を考えた行動ができるようになりました。そんなことが成長かと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、小心者で引っ込み思案な自分にとっては、大きな成長なのです。

他には、自信がついた影響からか、物事への考え方が広がったように思いました。具体的には、ニュース等の報道番組での話題に興味を持ったり、考えを深め、自分の意見を持ったりできるようになりました。

勉強についての成長は残念ながら、感じられませんでした。こういったことも含めて、自分は成長しているなど感じました。この成長が将来の自身の自立につながるのだろうと感じました。次に振り返る頃には勉強の方も成長できているといいなと思いました。努力して、もっと強く自分に自信を持てるようにしたいとも思いました。

V さん (10 期生)

「平成の最後の夏」

「平成の最後の夏」という言葉は、日本人ではない私にとっては他の年と区別できないですが、学校の友達は「平成の最後の夏」を全力で楽しもうとしているみたいです。そう言って私は夏を楽しまないというわけでもないです。「平成の最後の夏」という実感がありませんが、「高 2 の最後の夏」と言う心がすごくひかれます。そのため、私も回りのみんなと同じく今年の夏に「全身全霊全力」です。

高校 2 年の夏にしかできないことがたくさんあると思います。例えば部活です。部活に入っている人にとっては最後の大会で全国大会へ出場しない限り最後の夏練習になります。そして自分の進路を決めるのに必要とされるオープンキャンパスへの参加も 1 つの例です。たくさんの大学のオープンキャンパスに参加し、どの大学を目標にするのかをゆっくり考えられるのは高校 2 年の夏だと思います。そういう風に大事なことしかない今年の夏に海外にいる私はどうすればこの夏を無駄にしないですむのかを考えてみました。

1 つ目、何よりも大事なのは大学のオープンキャンパスだと思います。高校 2 年生になる前の私はずっと医者になりたくて医者以外の職業を全然考えていなかったのも、医学部に入れるように頑張りました。しかし自分の学力とともに他のたくさんの方に気づくようになり、医者になるのは難しいと分かるようになりました。ですから今年の夏にたくさんの方の職業について調べ、自分に合う職業と自分が興味を持てる職業をみつけないといけないと思います。そのうえ、それについての大学、さらに学部、そして受験制度も調べておきたいと思います。日本の大学だけではなく、ずっと留学という夢を持つ私は海外の大学も、そして奨学金についても調べてみようとしています。

2 つ目は部活のことです。今年の夏は一番伸びる時期だと思います。練習時間が多いからです。そのため、みんなと一緒に練習できない分一人で倍の努力をして抜かされないように頑張りたいと思います。大学進学につながる全国大会、ぜひ出場して結果を残したいので、誰にも負けにくいぐらいの勢いと気持ちで今年の夏を過ごしたいと思います。

最後に、今まで自分がずっとやりたかったことをこの夏にやりたいと思います。私にとって「高 2 の最後の夏」だけではなく高校生として楽しめる最後の夏になります。ですから、自分が興味を持っているスケートボードやバスケットボールやスカイダイビングなどに挑戦してみたいと思います。

このすべてが私にとって最後の「平成の最後の夏」になるのではないかと感じます。

K さん (10 期生)**「中学校をふり返って」**

私は中学 1 年生の 2 学期に日本に来ました。出身中学校は I 中学校です。今は F 高校に在学しています。両親とも中国出身です。

私はよく「日本で生活はもう慣れましたか？」という質問を受けます。私の答えは「初めはまったく慣れませんでした。中国と違い、日本の学校のルールが思っていたよりずっと多くて面倒臭いと感じました。でも学校の友人と先生のおかげで無事に慣れることができました。」です。

慣れるまでかなり時間が掛かりました。その時に助けてくれたのは JSL 教室でした。JSL 教室で教えて頂いた日本の話や日本のルールはとても役に立ちました。学校だけではなく普段の生活にも使えます。

時間の流れは速く、あっという間に中学 3 年生に上がりました。その時はすでに進学塾に通っていましたが、特に行きたい高校はその時の実力では無理でした。選択肢は 2 つ、そのまま志望校を諦めて楽に中 3 を過ごすか、今よりもっと努力して希望校を受けるかでした。私は後者を選びました。

苦労したことはゼロから学ばないといけない社会でした。カタカナばかりの世界史とまったく触れることがなかった日本史や地理は私が直面する二つの課題でした。この 2 つの山を越えるために、夏休みを使い歴史全般を克服しました。受験の 2 ヶ月前から地理の問題集を繰り返して解きました。社会だけではなく問題量が多い理科や一旦は諦めた国語を重視して最後の復習をしました。努力が実り志望校に合格することができました。

受験は中 3 の 1 年間だけではなく、中 1 からの学校生活も熱心に参加しないと内申が足りなくて志望校を受けられない場合もありますので、例え中 3 の人ではなくても学校生活を一生懸命頑張ることをお勧めします。日本語を勉強するためにも学校内で同じ国の人と固まらずに、日本の生徒と話をすることをお勧めします。

これらは、私の意見ですが参考になるとうれしいです。

P さん (9 期生)**「高校の最後の夏」**

「私とはどんな人間か。興味があることは何なのか。また将来何をしたいのか。」ということ一度は自分に問うたことがあるだろう。中にはすぐに答えられる人もいると思うが、この問いに答えられない人もいると思う。僕もその中の一人だった。

しかし、今は答えられる。きっかけは、高校の最後の夏にある人に出会ったことだ。僕がオープンキャンパスのために東京に行った時の話だ。僕が大学のオープンキャンパス帰りに東京に住んでいる友人にご飯に誘われそのときに初めて彼と話をした。彼はオーストラリア人で日本に興味があるから来日したらしい。

彼とはオーストラリアについての話、またお互い興味があることといった一般的な話をした。

彼との話がだんだんと進み、将来のことについて話を始めた。僕が彼に将来どんなことをしたいのか聞かれたときに、僕は答えられなかった。そんな僕と違って彼には世界の多くの国に行きたいという夢があると答えた。それを聞いた僕は、「彼は将来、航空会社で働くのだろう」と思った。

しかし彼に聞いたところそうではなかったのだ。彼はフリーの映像作家になりたいと答えた。それを聞いた僕は不思議に思った。映像作家と言えば、放送会社のカメラマンだけだと思っていたからだ。彼がフリーにこだわるのは、もし放送会社のカメラマンになれば世界のいろんな国々に行く夢が叶え

にくくなるからだと言う。

彼は興味のあることと、将来の夢は一つだと僕に言った。映像作家は撮影だけが仕事ではない。世界はもっと広いと、頭をやわらかくすべきだと彼に言われたのだ。事実、現在彼は多くの国々を周りながら仕事をしている。

私は今ではやりたいことを仕事にすることができるということが彼のおかげでわかった。世界は自分が思っている以上に広くたくさんの可能性があるのだ。僕は国際関係の仕事がしたいと思っている。ただし、今の自分はどんな仕事が良いか具体的には決まっていない。だから彼から教わったように、可能性は無限大なので、これから、国際関係を軸にいろいろな仕事を考えてみたい。

K さん (9 期生)

「学校生活について」

高校 3 年生になって、これまでと変わったことは部活動のことです。5 月に引退して約 2 ヶ月が経ちました。一つの習慣であった部活動がなくなったので自分の時間が増えました。つまりこれからはこの残った時間を利用して受験勉強に励んでいきたいです。

学校生活では部活動を引退してすぐに文化祭がありました。僕のクラスはチュロスとハッシュドポテトを売りました。これまでは部活を言い訳にして積極的に参加してこなかったけど、今年は最後ということで積極的に参加し、クラスの皆と協力して文化祭を楽しめました。文化祭を通して思ったことは自分から積極的に行動することや周りの皆と協力して何かを成し遂げることの大切さを身にしみて感じました。これからの学校生活ではこの経験をいかして残り少ない学校生活を全力で楽しんでいきたいと思います。

学校生活を楽しむことも大事だけどそれよりもっと大事なことは受験勉強です。学校では先生が「この夏で決まるぞ。」と言っていました。もう、うかうかしてられないなと思いました。

これまでは部活や学校行事などで皆と協力することができました。でも受験は自分一人の力でやっつけていかなければなりません。だからこれからは周りに頼りすぎず、自分の力を磨いていけたらなと思います。

学校生活を悔いの残らないよう頑張ったり、受験勉強をしたりと、これまでとぜんぜん違う夏休みになりそうですが、嫌な顔せずひたむきに頑張っていきます。そして 1 年後の自分を思い描いて妥協せず、気を引きしめてこれからの学校生活を送っていきたいです。

最後に今まで僕を支えてくれた父親、進路のことについて真剣に考えてくれている担任の先生、奨学金の方々に感謝の気持ちを忘れず残り少ない高校生活を後悔のないように過ごしていきたいです。

G さん (9 期生)

「夏休みの過ごし方」

私にとってこの夏は受験の夏です。耳にたこが出来くらい、学校でも家でも先生や友達や家族などに勉強勉強と言われます。自分でも“勉強せなあかん”“このままだと合格できない”と思いながらもどこかで逃げている自分がいます。私のこの悪い所を知っている母は今年の春に塾に通わせてくれました。私の塾は看護学校の受験を中心に教えてくれる所です。私の目指している進路が看護の学校なので私にとってもピッタリです。週に 3 回で 18:20 から 21:00 までです。最初は体が慣れなくて行きたくなかったです。しかし、通っているうちに慣れてきて友達もつくれました。学校の友達とは少し違って目指す所が一緒なのでお互い意識を高め合いながら励ましてがんばっています。

今、夏休みに入っています。学校の夏期講習がまず最初にあって、その次に 8 月から始まる塾の夏期講習があります。夏休み前は、全部予定が埋まっているので計画的に取り組もう！と強く意気込みました。計画通りとは言えないけど着々と取り組んでいると思います。そして、今日は最後の三者面談でした。推薦で受験するか指定校で受験するかで先生と相談しました。母の考えでは“指定校で早く合格できるからそっちの方が安心できる”と言います。その気持ちは私も百も承知ですが指定校は岡山県の学校しかありません。通うには遠いので寮か下宿をしなければなりません。そこが私の引っかかる所です。親元から離れる上、3 年間知らない人と暮らすことはどうなのかと思っています。でも万が一、行きたい所が不合格となった場合はそんな贅沢言えません。

だから、この様なことにならない様に残り約 3 ヶ月間を毎日テスト勉強と頑張って取り組みたいです。本当に人生の中でもベスト 3 に入るくらいの重要な期間なので、絶対に次、この作文に“合格”の二文字を書きたいです。なので、何があっても力いっぱいがんばります。応援して下さい。